

「遠い国のことだと思わず、自分の身近な仲間が苦しんでいると思ってほしい」と、フィリピン出身の男性は言いました。

昨年の文化祭で、私はフェアトレード商品を販売しましたが、思うように買ってもらえませんでした。「値段が高すぎて全然売れなかった。値下げすればよかった」と私が売れ残った商品を見ながら言うと、先生はただ商品を買ってもらうことよりも、フェアトレードの仕組みや商品について説明して、理解し協力してくれる人を増やすことが大事だったと残念そうに言われました。私はフェアトレードの事前講習会で、発展途上国の原料や製品を正しい値段で売り買いすると、そこで暮らす人の生活や労働環境が改善され、自立できた人が貧困から抜け出せる仕組みこそがフェアトレードだと学んでいたのです。しかし実際に商品を販売すると、高く買うことをためらう人にフェアトレードの説明をしないばかりか、私は商品を扱うだけで発展途上国の良き理解者になったつもりでいたのです。

それ以来、私は本当の理解者になるために、多くの活動に参加しました。例えば、全校生徒に着なくなった服の寄付を呼びかけ、ダンボール72箱、二トントラック一台分の古着を世界の難民に送りました。また、資金不足により東京オリンピックアフリカ予選に出られないジンバブエ野球協会への募金活動にも参加するなど出来ることを見つけては取り組みました。しかし、私は何をしてもただの自己満足で、何の力にもなれていないのではないかと思うようになったのです。

そんな私を見た先生が、一人の卒業生を紹介してくれました。彼はフィリピンで生まれ、生後20日で両親に捨てられましたが、日本人女性に救われ、今ではその女性の子供として日本で暮らしています。その彼がフィリピンでの生活や抱えている問題について教えてくださいました。

フィリピンでは、親に捨てられてストリートチルドレンになったり、児童労働を強いられ学校に通えない子どもが550万人もいるそうです。また、4人に1人が1日1ドル以下で生活し、お金に困ると自分の子どもを売ったり、自分の臓器さえもお金に換える人がいます。しかし、人身売買や臓器売買でお金を得たとしても、結局貧困の連鎖からは抜け出せないのが現状だと言うのです。そこで、世界でフェアトレードへの理解と協力が広がり、最近ではフェアトレードに参加した生産者の生活が少しずつ変わり始めています。正当な資金を受け取れるようになった生産者は、児童労働をやめるだけではなく、教員を育て、地域に学校を作り、子ども達に教育を受けさせているのです。

「何も変わらないと思って何もしないのではなく、同じ地球人のこととして受け止め、その仲間のために行動することが必要だ」

と彼は最後に言いました。私はその言葉を聞いて、フェアトレード商品をただ扱うのではなく、フェアトレードを理解し、協力してくれる仲間を増やすことが大切なのだと分かりました。そして、地球上に住む一人の仲間として、私の行動で子ども達の未来を明るく変えることができると気が付いたのです。

将来、私は小学校の教員になりたいと思っています。教員となって日本だけではなく、世界中の子ども達が当たり前のように学び、遊び、笑える世界になるよう行動していきたいのです。世界で約6700万人の子どもが小学校に通えていない現在、私はフェアトレードを通して、教育が受けられる環境を整え、誰もが安心して生活できる社会に変えていきたいのです。そして、いつか発展途上国へ行き、世界中の子ども達に読み書き計算を教えるだけではなく、学ぶことで自分の未来を変えられることを直接教えたいのです。私の行動の先にある明るい未来を信じ、これからも一人の地球人として、世界中の子ども達のために行動を起こし続けます。